

# 平成27年度 新潟市生活部 活動報告

部長 福原 勝子(新潟市立山潟小学校)

## 1 研究主題

一人一人が学びを実感する生活科授業  
～伝え合いを通して～

## 2 研究の概要

一人一人の思いや願いを生かし、気持ちが動いて気付きが生まれる生活科授業を目指し、研究を進めてきた。過去3年間の授業実践を通し、「伝え合い」活動を取り入れることで、新たな視点が生まれたり、活動の意欲が高まったり、自分自身のことについて気付いたり、という成果が見られた。そこで、気持ちが大きく動き、「学びを実感」する生活科授業を目指し、単元や1単位時間の中での効果的な「伝え合い」の位置付けや、方法について研修を進めていくこととした。研究の概要は以下の通りである。

- 具体的な「伝え合い」活動について、部員の実践を持ち寄り、意見交流を行い、各校の今後の実践に役立てる。
- 「一人一人が学びを実感する生活科授業」を構想するとき大切なことについて、講演を通して理解を深める。
- 授業研究によって、「学びを実感した姿」を具体的に捉え、「伝え合い」の手立てについて検証する。

## 3 主な事業内容

### (1) 講演会

- 『学びを実感する生活科授業』 講師 上越教育大学 松井 千鶴子 准教授
- 『生活科の精神と形』 講師 中之口東小学校 細河 正行 教頭
- 『これからの生活科に期待するもの』 講師 小須戸小学校 保科 徳久 校長

### (2) 授業公開

- 第1学年『ありがとうがいっぱい ～いえのしごとでちょうせんしょう～』  
授業者 女池小学校 土屋 陽子 教諭
- 第1学年『いっしょにあそぼうよ ～ようこそ、月小へ～』  
授業者 月潟小学校 捧 可奈子 教諭

## 4 成果と課題

「伝え合い」活動の中核に据えた研究についての成果と課題は以下の通りである。

### (1) 成果

- 質の高い活動・体験があるからこそ、伝えたい気持ちが高まる。『ありがとうがいっぱい』の授業では、保護者と連携したお手伝い活動、『いっしょにあそぼうよ』の授業では、保育園との3回の交流会が、それぞれ充実し、質の高い活動であった。その結果、授業における「伝え合い」を通し、子どもは、自己肯定感を高めたり、次の活動への意欲を高めたりすることができた。また、子どもにとって必然性のある「学び時」に「伝え合いの場」を入れることが有効であった。
- 伝え合いの際に、実際の物を使って説明させたことや写真を見せながら話をさせたことにより、話している子どもにその時の様子や気持ちをより具体的に想起させることができた。また、聞いている子どもも、学びを深めることができた。
- 教師による一人一人の言葉をつなぐ全体への問い返しにより、子どもたちは、新しい気付きを得たり、気付きを関連付けたりすることができた。

### (2) 課題

- 教師の考えさせたいことと子どもの伝えたいことが一致していないと、気付きや意欲が高まりにくい。したがって、真の学習課題の在り方を検討する。
- 全体での「伝え合いの場」では、たくさん話したいことがある子どもがいる一方で、全く話せない子どももいた。また、グループでの「伝え合い」が、有効に働いたグループとそうでないグループがあった。効果的に働いた要因とそうならなかった要因を明らかにし、より一人一人にとって有効な「伝え合い」の在り方を検討する。